講 評 | たくさんのご応募ありがとうございました。

ご応募いただいた写真総数 6787 点の中から大賞 1 点、優秀賞 2 点、佳作 5 点を選考し、受賞作品の講評をいただきました。

板見 浩史先生

フォトエディターとして多くの写真賞やコンテストの審査員を担当。
日本フォトコンテスト協会代表理事。
公益社団法人日本写真協会顧問。NPO 法人フォトカルチャー倶楽部理事。

平嶋 彰彦先生

写真家、編集者。元毎日新聞社出版写真部長、ビジュアル編集室長。
共著に『昭和二十年東京地図』（筑摩書房）、
編著に『宮本常一写真・日記集成』など。

佳 作

おとぎの街

京都府・田口富男さん

城壁から見たチェスキー・クルムロフの街並みです。何の予備知識もなくツアーで訪れた街でしたが、雪の積もった屋根がまるで子供のころに読んだ絵本やおとぎ話の世界のようで、印象に残りました。この後、街を散策するために絵本の世界へと入っていきました。

板見先生

ボヘミア時代からさまざまな変遷を経て現代に美しい姿を残す都市、チェスキー・クルムロフ。世界遺産である歴史地区の冬のたたずまいを、シンボルの城と川を巧みに入れて切り取っています。雪でカラフルな屋根の色彩は省略されたものの、かえってすがすがしさが強調されました。

佳 作

なつぞらの花のパッチワーク

兵庫県・秦勉さん

知床ツアーの最終日に訪れた、美瑛町・四季彩の丘。パッチワークのように広がる花畑が美しく、入園した瞬間息をのみました。限られた時間の中で撮影スポットを探し回って、ベストポジションを発見。画角をワイドに捉えて大自然を表現することができました。

平嶋先生

北海道の美瑛と富良野には、花のパッチワークと愛称される雄大な花畑があり、この作品の撮影地もそのひとつ。短冊状に何種類もの花が咲き誇る花畑の描写もさることながら、その奥に、野菜畑や穀物畑、さらにその奥に、緑の山々を配した構図が素晴らしいと思います。

大賞

1・2月

五箇山 真冬の花火

東京都・
齋藤拓さん

板見先生

背景の空と山々、ライトアップされた合掌集落や雪面など、全体にバランスよく光が回っているため、まるで壮大な舞台写真を見るような面白さがあります。建物と花火だけを狭く捉えずに、広いフレーミングで山里の全貌を描写したことが功を奏しました。初発の花火のためか、煙も生じずに透明感のある世界を表現できました。

平嶋先生

ライトアップされた合掌造りの民家と打ち上げ花火。世界遺産で知られる五箇山の冬。幻想的というか、超現実的というか、不思議な美しさを感じさせる作品。観光客をさりげなく写し込んでいますが、五箇山は平家の落人伝説の地。写真から今と昔の変化が分かります。観光写真としてはもちろん、記録写真としても、秀逸な作品です。

優秀賞　3・4月

三多気の山桜

静岡県・山本武正さん

板見先生

限られた撮影ポジションから、実に堅実なフレーミングを探し出しました。露出も明る過ぎず、桜の華やかさを損なわない程度まで抑えめにしたので、田の水面に桜の姿がしっかり映り込み、遠くの山影や手前の石垣もしっとりと描写されました。微風だったこともあり、棚田への桜の反映が美しく描写されたのは幸運でした。

佳 作　5・6月

巨大岩と砂

大阪府・身野寿孝さん

板見先生

白砂とコバルト色の海との対比が心地よい作品。思い思いに初夏を堪能する人々の姿が的確に捉えられています。特に右の二人は貝探しに夢中なのでしょうか、動きもあり良い点景となりました。中央のトンネル部分も額縁のように人物を引き立てていて印象的です。

佳 作　7・8月

イアのサンセット

千葉県・石崎敦子さん

平嶋先生

エーゲ海に浮かぶサントリーニ島。ギリシャ神話にも出てくる火山島で、断崖の上の急斜面におとぎの国のような白壁の家や風車が並ぶ人気スポット。あかね色に染まる空と海に、街の灯りが映える夕景のなんという美しさ。旅の幸せを感じさせる見事な作品です。

佳 作　9・10月

寒露の色づき

東京都・松澤朝夫さん

板見先生

日光の名瀑のひとつ「竜頭ノ滝」。定番位置からのオーソドックスな狙いながら、コントラストを弱め、ソフトに描写しています。全体の紅葉も絶頂期ではありませんが、錦秋の彩りと緑との対比も淡く上品で、あたかも水彩画のような見飽きぬ魅力をたたえています。

優秀賞　11・12月

エンパイアステートビルと夕焼け

京都府・杉崎陸さん

平嶋先生

エンパイアステートビルは、ニューヨークの超高層ビルの代表格。都市が最も装いを凝らすのは夕暮れ時。その美しさに魅せられるだけでなく、なにか敬虔（けいけん）な気持ちにさせられる作品。エンパイアと地平線が十字を描いていますが、この絶妙な構図の取り方が、作品をより格調高くしています。